

健康登山38: 自然歩道19 (室生口大野駅 ~ 竜鎮溪谷 ~ 室生寺 ~ 室生口大野駅)

コース	室生口大野駅 1.8km/35	室生ダム 0.9km/15	竜鎮橋 1.7km/45	出合
	2.3km/61	天王橋 0.9km/17	西光寺 1.4km/21	室生寺 1.1km/40
	1.7 / 50	門森峠 2.6km/53	車道 1.5km/24	室生口大野駅
水平距離	16.0km			
水平換算距離	18.0km			
累計高低差	登り850m、下り850m			
標準歩行時間	6 : 00			
実績歩行時間	6 : 51			
		断面図		



山行報告

山行日	2008・07・03 (木)	天候	曇り 後 晴れ	参加者	7名
行動	室生口大野駅9 : 55 室生ダム10 : 23 竜鎮橋10 : 37 出合11 : 25 荷阪林道枝谷引返し 点12 : 30 ~ 13 : 00 (昼食) 出合13 : 28 天王橋14 : 22 西光寺14 : 35 室生寺15 : 00 奥ノ院 室生寺15 : 56 門森峠16 : 32 車道17 : 23 室生口大野駅17 : 47				

記 録

室生口大野駅から室生寺へは室生川沿いの車道、東海自然歩道、竜鎮溪谷(深谷川)があり、はじめは東海自然歩道を歩いて室生寺に参詣し帰りは竜鎮溪谷か室生古道を歩く予定だった。ところが予想外の好天だったので竜鎮溪谷を登り、帰りに東海自然歩道を歩くことにした。駅から大野寺、室生ダムを経て竜鎮橋までは5月に逆コースを歩いている。新しい室生路橋を渡り柱状節理の岩を眺めながら歩いて竜鎮橋から竜鎮溪谷に入った。5分ほどでナメ滝のかかる竜鎮神社に着き、さらに沢歩きによさそうな深谷川にかかる橋を5、6回渡ると出合に着く。ここで左俣に入るべきところを整備された林道に誘われて荷阪へ向かう右俣に入り枝谷の標高500m地点まで行き、そこから引き返した。このため1時間余りロスをした。深谷川左俣の途中では木材の伐採中で、木材を荷阪へ運搬する大型トラックと出会った。一部左岸を高巻きし、天王橋には14 : 23に着いた。腰折地蔵を通り、枝垂桜のある西光寺に立ち寄り、室生寺には15時に着いた。金堂を拝観し、修復された五重塔から410段の石段を登り奥ノ院まで上った。室生寺から集落内の近道を登り、東海自然歩道を門森峠へ向かった。室生寺の参道の一つで石畳が敷き詰められていて、昔は参詣する人で賑わったと思われる。しかし門森峠付近は急坂で苔のついた石畳は滑りやすく要注意、全員無事通過。車道と合流し、室生口大野駅に向かった。大野寺磨崖仏は西日に照らされていた。随所に咲く紫陽花が印象に残った。大野駅17 : 55発、京都駅には19 : 18に着いた。今回の反省点は分岐で道を間違えたことである。一旦左俣の橋を渡り右俣右岸に出るので右俣が本流のように見える。そこから戻る形で左俣に入ることになる。

自然歩道 (室生口大野駅～室生寺～室生口大野駅)



室生口大野駅前  
9:54

新しい室生路橋  
10:11



滑りやすい竜鎮  
神社前のナメ滝  
10:46

竜鎮溪谷を歩く  
13:41



溪谷の奇観  
甌穴？  
14:01

西光寺の枝垂桜  
14:37



あさぎり公園  
14:59

修復された  
室生寺五重塔  
15:19



室生寺山門前  
15:56

滑りそうな  
門森峠の石畳  
16:39



## 名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：室生口大野駅～室生寺～室生口大野駅）

参考資料、HP、その他より

**かどもりとうげ 門森峠**：石畳の続く長い坂道。（濡れると滑りやすい）室生側も石畳の九十九折れ急坂。東海不親切道とぼやきたくなるそう！しかし樹林の中の静かな落ち着いた峠。

**室生寺**：役行者草創、後に空海中興と伝える古寺。（現在は真言宗室生寺派大本山）山号は<sup>い</sup>一山（べんいちさん）と号し、「<sup>い</sup>一」は室生の略だといわれます。室生は室、牟漏とも書き<sup>い</sup>ム口と読みます。ム口とは神の坐<sup>い</sup>ます山を意味します。また室とは、山の斜面に穴をあけて作った岩室、僧房の意味も有ります。

奈良時代末期、山部親王（桓武天皇）の病氣平癒の祈願のため、賢<sup>けんけい</sup>憬（賢<sup>けんきょう</sup>璟とも称される）など五人の僧がこの山中で祈禱をして、優れた効果が有り、勅命を奉じて国のために建立されたのが室生寺です。（賢憬は鑑真を難波で迎えている）

伽藍の造営をしたのは、興福寺の高僧賢<sup>けんけい</sup>憬の弟子修円です。空海と最澄に並び、平安初頭の仏教界を指導する高名な僧で秀才だったそうです。

室生寺は興福寺の法相宗を始め、天台、真言、律宗などの高僧を迎え、山で修行するかたわら、各宗を勉学する道場として大きな役割を果たします。一方、龍が棲むという山中の龍穴などから、龍神信仰が生まれ、雨乞いの祈願のため朝廷から勅使が送られ、龍神の室生の名が広く知られるようになった。

室生の深山の環境は密教の道場にふさわしいことから、密教的色彩が濃くなり、鎌倉期には密教の最も重要な儀式を行う灌頂堂（国宝）と弘法大師を祀る御影堂（大師堂/重文）が奥の院に建立されます。

真言密教の根本道場である高野山が、近世まで厳しく女人を禁制したのに対し、元禄時代に室生寺は女人に開かれた道場『女人高野』として広く親しまれました。将軍綱吉の母桂昌院から寄進を受け、堂塔が修理された事が大きな転換とされます。

### 【その他の国宝】

五重塔（奈良後期）高さ 16.1m、弘法大師が一夜で建てたとか？

金堂（平安前期）。釈迦如来立像（平安前期）。十一面観音菩薩立像（平安）

### 【室生山】

如意輪山(室生山 621m)と焼山(652m)の二つの峰からなっており、一般的には奥の院のある如意輪山を、室生山と呼ばれています。室生山は円錐形の神山です。

### 【室生寺表門の石標】

「女人高野室生寺」の文字の上にある紋は、桂昌院の実家で家司<sup>はいし</sup>(三位以上の家に置かれた家政職)である本庄家の家紋「九目結紋<sup>このつゆいもん</sup>」だそうです。桂昌院 = お玉/京都堀川八百屋の次女(父の死後、母が本庄宗正の後妻に入る)

### 【室生寺鎧坂】

金堂への階段。大和三名段(仏隆寺、談山神社、室生寺)の一つ。鉄板を威した鎧のように見えるので、鎧坂と呼ばれています。階段両脇に植わっているシャクナゲは3000株。4/下~5/上が見ごろです。

### 【室生火山群】

太古の火山活動で形成された場所で、中心が室生山。龍鎮溪谷に見られる柱状節理(割れ目/竜鎮橋~室生ダム間に露出)がその証。赤目四十八滝、香落溪、曾爾の屏風岩などの奇勝を生み出しました。

龍鎮溪谷：室生湖に注ぐ深谷川(竜鎮川)溪谷は、姿のよい「竜鎮滝」や核心部の「上竜鎮滝」「比布の滝」と清涼な水が岩盤を流れ、山紫水明の幽境をいまも留めている。ハイキングコースとして知られているが、増水時の渡渉に注意が必要。

溪谷の水は平成3年「大和の精澄な水」31箇所の中から1つに選ばれています。  
竜鎮溪谷下流より

#### 【竜鎮滝】

落差4m滝壺の底まで見通せる。淵の美しさは神秘的。対岸に祠がある。宇陀市榛原と室生の境辺りにある。

#### 【比布滝】

落差20mナメ滝。姿は優雅。

#### 【上(奥)竜鎮滝】

落差15mナメ滝。大きな岩石の上を水が滑るように流れる。

西光寺 : 融通念仏宗、無住。

開基天正 8 年(1580)、現存位牌には長享元年(1487)のものもあるそうです。  
茅葺屋根だが亜鉛板で覆われています。樹齢三百年の「枝垂れ桜」は有名。

腰折地蔵 : 室生古道の「唐見が辻」に茅葺のお堂に祀られています。

夫婦の地蔵が喧嘩して、妻の地蔵が夫を蹴ったとか？お地蔵の腰の辺りが二  
つに折(割)れている。腰から下の病気に靈験あらたかとかで信者も多い。

近くに二代目「衣掛けの松」があります。(弘法大師？が掛けた)

室生古道 : 国道 369 号線高井バス停角に寛政 12 年(1800)の「室生」への道標がある。

200m先の道標には左仏隆寺、右いせ本街道。ここから別れ、仏隆寺から唐  
戸峠を越え室生へ至る古い参詣道を室生古道といいます。

#### 【室生四大門】

室生には四方に古道が通じ、それぞれの道筋に立つ 4 寺を室生寺の四大門と  
呼びます。

東 : 田口の長楽寺

西 : 大野の弥勒寺(大野寺)...通過済(5月)

南 : 榛原赤植の仏隆寺.....立ち寄り済(4月)

北 : 三重赤目の常勤寺(丈六寺)

天王橋 : 室生古道と東海自然歩道の分岐、深谷川に架かる橋。

ここの辻を「唐見が辻」と言うそうです。〔唐見 = 室生(唐に見立てる)〕

竜鎮溪谷天王橋手前に、ハイカーのために東屋が設置されています。

カラト峠 : (唐戸峠/室生峠) 室生古道にある峠。役行者が祀られている。(唐戸 = 室生)

仏隆寺赤植の大力エデ :

仏隆寺前の水車小屋のすぐ上、室生古道脇に「赤植<sup>あかぼね</sup>の大力エデ」があり秋に  
は見事に紅葉します。(赤植 : 地域名)

仏隆寺の茶臼 : 仏隆寺は、弘法大師の高弟賢恵が創建。大和茶の伝承地であり空海が唐  
より茶種子と一緒に持ち帰った最古といわれる茶臼があります。獅子模様が  
浮き彫りされています(入山料 100 円)